慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	A general history of Europe, by J. H. Robinson and J. H. Breasted, with the collaboration of E.. P. Smith / History of Europe: Ancient and Medieval, by J. H. Robinson and J. H. Breasted / History of Europe: our own times, by J. H. Robinson and C. Beard
Sub Title	
Author	間崎, 萬里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.2, No.1 (1922. 11) ,p.156- 158
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19221100-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Frank A. Mumby : The Fall of Mary Stuart Constable, London, 1921

History in Contemporary Letters 叢書の一卷である。著者は本書の外に、同叢書の The Youth of Henry VIII, The Girlhood of Queen Elizabeth, Elizabeth and Mary Stuart 等の執筆者である。薄命の佳人マリイ、スチュアートの一生は英國史（同時に蘇格蘭史）の中、最も波瀾曲折の變化を極め、ロマンティックの事件に富んだ、併かも今尚史家の疑問となつて殘つて居る神秘の多い時代に屬して居る。本書の取扱つかつた範圍は、マリイとダーンレー卿との不幸なる結婚、マリーの愛人リッヂオの殺害、ジエームス六世（英國王としてジエームス一世）の誕生、ダーンレーの暗殺及び Casket Letters の不可思議、ボスウエルのマリイ誘拐に續くホオリルッド宮に於ける結婚、カベリーの敗北及びボスウエルの逃亡・ランゲサイドに於けるマリイの戰敗、最後にマリイが英國に走つて一身の安全を求めたところが、エリザベスの示した友誼の約束は單に書簡の上に止まつて居たことを發見した絶望的幻滅に至るまでの事件の叙述である。此の僅々三年足らずの期間に菊判三百五十頁を費されて居るのを見ても、奈何に其記事の精細なるかを察することが出來る。マンビイ氏は英國史中最も興味に富んだ是等の事件が、後世歴史家のさまゞなる想像やら憶斷やらに依つて、餘程事の眞相に遠ざかつたものにせられた事を遺憾として、當時代に活躍した史上の人物の間に交換せられた書簡を普れく渉獵して、其中から最も信憑す可きものを拔萃して、夫れ〳〵の事件の論證に充てたのである。即ち是等の事件を惹起した史上の人物自身をして、直ちに歴史の眞相を語らしめやうと云ふ行方である。であるから、書簡の方が主で、本文は從となつて居る分量に於ても、後者は前者の半分位であらう。夫れから最も變つた編輯法は、書簡には五號活字を用ひて、本文には其れより小さい活字を用ひて居る事である。是れは普通の讀者が、兎角引用せられた根本材料を讀むことを煩勞とする風に顧みた點もあらうがこれに依ても本書の目的の在るところを察す可きである。本書の内容に就てはいろ〳〵記したい事があるけれど、其れは他日精讀の上に讓りて、今は唯だ大體の紹介に止めて筆を擱く。

（占部百太郎）。

A General History of Europe. [By J. H. Robinson and J. H. Breasted, with the collaboration of E. P. Smith, 1921, 12mo. Pp. 667]

History of Europe: Ancient and Medieval. [By J. H. Robinson and J. H. Breasted, 1921. 12mo. Pp. 667]

History of Europe: Our Own Times. [By J. H Robinson and C. Beard, 1921. 12mo Pp. 616]

ロビンソン氏が、米國で夙に思想史研究者の先達として知られ且つその新史觀によつて同國の史學者間に異彩を放つてゐた事は一度び諸雜誌に見えた氏の論文集である The New History, 1912

を讀んだもの、等しく知る處であらうが、氏は近來現實の社會改造運動に携はり、先年ニュー・ヨークに新設された New School for Social Research に於て、同校幹部の一人として、專ら人類文化の向上、世界平和の大目的に向つて努力しつゝある。

其の抱負の一端を窺ふべき同校に於ける數回の講義は、今や一卷の書冊をなして（The Mind in the Making 1921）といふ。こは改造運動の基調を人心の改造に於ける氏が、特に知力の歷史的發達を考査して、自由思想の開展に貢獻せんとせるものである。

かく一般社會の教化に努力せる氏は、又青年學生間に現實の歷史について、人類文化の現狀を理解せしめんとするの努力を惜まない。氏が初めて西洋史入門を著はしたのは一九〇二年の事であつたが、爾來その改訂を怠らず、僅かに二十年を出でざるに、數度の變遷を經て表題の新著二種を生むに至つた。歷史教科書乏しからずと雖も斯の如きは蓋し稀であらう。大小二種の新著は何れも人類文化の起源より最近に叙及してゐるが、通史の方はその紙數が後者二卷の約半分なるによつて、その記述が如何によく簡約されてゐるかが分るであらう。紙面の都合上爰にはその沿革を記すだけに止めその内容についての批評は之を割愛しようと思ふ。

兩者の原型をなすロビンソン氏の最初の著述は、

1. Introduction to the History of Western Europe 1902. Pp. 714.

であつて氏の專攻せる中世に初まり現代に及んでゐる本書は現在を中心として過去との關聯を求め殊に社會史文化史方面の記事に大に着眼の新なるものがあつた。之には二卷本の分冊も出集めた同氏の來てゐる。次で一九〇四年その參考用として資料を集めた同氏の Readings in European History, 2vols. が出た。爾來國民中心の本教科書は協力者を得て種々の編著を見るに至つた。次で出た、

2. Robinson and Beard: The Development of Modern Europe, 2 vols. Vol. I, 1907. Pp. 362 II, 1908. Pp. 448.

は今般東京市政顧問として招聘されたビアード氏の助力によつて前著第十八世紀以後の部分を擴大したもので、之に對する資料 Readings in Modern European History, 2vols. Vol. I, 1908, II, 1909. も亦兩氏によつて編述せられた。

改刪された第　卷の出版に次いで、ブレステド氏の助力による第一卷が却て後から出版された。從來トールソに過ぎなかつた本書は爰に上代より首尾一貫せる西洋文化史の完全なる姿を具ふる事となつた。

3. a) Robinson and Beard: Outlines of European History, Part II, 1912. Pp. 555.

b) Robinson and Breasted: ——Part I, 1914. Pp. 728.

是である。殊にその埃及に關する部分は到底他人の追隨を許さざる底の眩惑的パノラマ式の叙述である。極言すれば、骸骨にも等しき本邦の歷史教科書をよみたるものは之を本書と對照して如何なる感想を起すであらうか。前者は殊更ら史的興味を削がんが爲めに編輯されたるかの如き趣あるに、後者は人をして清新なる歷史趣味を喚起させずんば止まざらんとするの觀がある。蓋し前者は學生の讀物としては餘りに無川の史實に富むがためであらう。後者は翌年分冊されて別名をとり、

c) A Short Ancient History, 1915

d) The Middle Period of European History, 1915

となつたが、勿論内容に於て相違する處を見なかつた。然るに後cの部分が頁數を倍加し、daが合綴增補されて右の二書をなすに至つた。

4. a Breasted: Ancient Times, 1916 Pp. 742

b) Robinson and Beard: Medieval and Modern Times, 1916 Pp. 777. 1919 ed. Pp. 788

これは本史書中の詳密なる最大の形である。他書に於て簡約された部分は本書によつて大抵明かにされ得る。其後 3c, 4a は更にコンデンスされて最も輕便なる上古史概說となつた。

c) Breasted: Survey of the Ancient World, 1919 P. p 417

是である。又別に(三)のマウトランズには次の小册子を追補して世界大戰の記事を加ふるに至つた。

d) The Last Decade of European History and Great War, Pp 76,

其後に出來たのが、表題の二書である。斯くして世界大戰後全く面目を一新するに至つた本書の内容が最も時代に適應せる良教科書である事は爰に多言を要しないのであらう。

余は往年本書の前身アウトラインズ第一卷について初めて西洋史の授業を中學に試みた關係上、本書の改良發展を特に慶ぶものである。因に、本年再び右の新著を慶應義塾大學豫科の教本として採用するに當り、學習上思はしからざる邦譯の出版防止の目的を以て、その出版書肆が快く反譯權を當大學に附與せられた事は同書肆に對して吾人の感謝する所である。（岡崎萬里）

VI Bryce: The Study of American History. New York, 1922. Pp. 118.

本書に收むる一編は本年一月長逝したジェームス・ブライス卿が昨年六月二十七日英國に於ける米國史の研究を奬勵するためにサー・ジョージワッソンの寄附によつて生れた講座の創立式が倫敦のアンジョンハウスに於て行はれた際に試みた講演の收錄である。本講演の目的を一言にして云ふことを許されるならばそれは民族の源を等しくしてゐる英米兩國民の血族的關係が如何に根深いものであり重要なものであるかを歷史の光に照合して英國民に悟らしめ而して米國史研究の必要を感得せしめやうとするに在るといへやう。

卿は劈頭に於て米國史とは何を意味するのか卽ち米國史とは何時に始まるものかとの問を投じて自らこれが解答を與えてゐる。曰く「北米に移住した人々の歷史は神話や詩歌の中に或はウォーデンやッノールやフレヤの禮拜の中にまたベオヴルフの古詩の中に在るものを除いては何等その地の記錄とてはない遙かな時代に遡てホルスタインや東フリヂヤの森林や海岸に發生した」（一七一八頁）と卿はこの時代を以つてアメリカ史發展の第一階段となしその第二階段は北歐の諸種族中の或るものが英國に侵入を始め遂にその島嶼に英帝國の基礎をかためた時代であるとなし第三階